

わたらの 健康とくすり

第105号



今月の内容

- 下痢の薬について
- 血圧とペプチド
- 爪白癬のパルス療法

キク（キク科）

中国から渡来した雑種起源の多年草で、多くの園芸品種があります。一つの花に見えるものは平たく広がった茎の先に多数の花が集まったもので、頭花と呼ばれます。頭花を菊花（きくか）といい、めまい、頭痛、眼のかすみなどに用います。他の野生菊の頭花も菊花の名前で使われています。

写真・文 指田 豊

発行者 八王子薬剤センター

2004年9月発行

東京都八王子市館町1097 電話0426-66-0931

朝長 文彌／茂木 徹

協力 八王子薬剤師会



疾患シリーズ 下痢のお薬について

寝冷えや冷たいものの摂りすぎで下痢を経験したことはありませんか。便が水っぽくなったり、排便回数が増えると下痢の可能性が高いですが、原因は無数にあり治療法も異なってきます。下痢を止める薬の働きはそれぞれ異なり、原因や症状に応じた治療薬の選択が最も効果的です。

分類	薬の例	薬の働き
整腸薬	ビオフェルミン、ラックビー	腸内で有害な細菌が増えないように有益な菌とのバランスを整える
	ビオフェルミンR	抗生物質を服用している時の腸内細菌の乱れを防ぐ
収れん薬	タンナルビン	腸管に膜を作り炎症粘膜を保護する
	フェロベリン	腸管内を殺菌し、腸内での腐敗・発酵を抑える
吸着薬	アドソルビン	腸内の毒物やガスなどの有害物質を吸着して排泄させる
止痢薬	ロベミン	腸粘膜の運動のしすぎを抑えたり、腸管からの水分の吸収を促進して下痢を止める
抗生物質	シプロキサ	下痢の原因となっている細菌を殺菌する
	トランコロ	腸の運動を調節してけいれんを抑える
過敏性腸症候群治療薬	ポリフル	腸管内の水分量を調節する
	サラゾピリン、ペンタサ	腸の炎症を抑え、潰瘍・びらんを改善する
炎症性腸疾患治療薬	プレドニン	潰瘍・びらん・過剰な免疫反応を抑える

下痢は体内の防御反応でもあり、食あたりなど体に悪いものを食べた時に、それらを吸収しないように急いで体外に送り出す働きもあります。このような場合には無理に下痢を止めると悪いものが体内に残ってしまうので、十分に水分を摂って外に出します。ただし海外旅行時に見られるような伝染病には抗生物質による適切な治療が必要になるので、嘔吐や発熱、血便がある時にはすぐに医師の診察を受けましょう。抗生物質が「善玉菌」を殺菌し「悪玉菌」が優勢となるために下痢が起ることもあります。薬を止めれば治ることがほとんどですが、一緒に整腸薬を飲むことで予防することもできます。過敏性腸症候群は下痢や便秘、腹痛といった症状が慢性に続く病気で、ストレスなど精神的なものが原因と考えられています。炎症性腸疾患は、腸に炎症が起こり潰瘍を作る病気で、潰瘍性大腸炎とクローン病があります。数ヶ月、原因不明の下痢が続き、発熱、血便、体重減少などがあらわれ、薬や栄養剤による治療が必要になってきます。

下痢が重症になると脱水症状が起こるので、炭水化物や電解質を含む適度な水分を経口摂取することが大切です。また、繊維質の多いものや脂肪、乳製品、カフェイン、アルコールを避けて腸を休ませるようにしましょう。

東京医科大学八王子医療センター 薬剤部 畑中絵里子



ちょっとお耳を…… 『血圧とペプチド』

近頃、特定保健用食品のマークがついた食品をスーパーやコンビニで普通に見かけるようになりました。特定保健用食品には、「ペプチド」という成分を含むものがいくつかありますが、今回はその中でも「血圧の調節にかかわるペプチド」についてお話します。

《ペプチドとは》

- 一般にペプチドとは、アミノ酸が数個つながった物質のことをいいます。特定保健用食品には、以下の成分があります(平成16年3月現在)。
- ・イソロイシルチロシン (商品例：キリン ビー・フラット)
 - ・カゼインデカペプチド(商品例：カゼインDPペプチオドリンク)
 - ・かつお節オリゴペプチド(商品例：ペプチドおみそ汁)
 - ・バリルチロシンを含むサーデンペプチド(商品例：ラピスサポートα)
 - ・ラクトリペプチド(VPP、IPP) (商品例：カルピス酸乳アミールSカロリーオフ)



《ペプチドの働き》



血液量が減少すると、「レニン」・「アンジオテンシン変換酵素（ACE）」の作用により、「アンジオテンシノーゲン」が、「アンジオテンシンⅠ」から「アンジオテンシンⅡ＝血圧を上げる体内物質」に変換され血圧が上昇します。「ペプチド」は、「ACE」の働きを阻害して血圧を上げにくくします。

ペプチドは医薬品のアンジオテンシン変換酵素（ACE）阻害薬（例：レニベースなど）と同様の作用を有するとされていますが、吸収されると消化酵素により分解されてしまう

ものもあるため、医薬品のACE阻害薬に比べて作用はずっと穏やかです。

《摂取にあたっての注意》

ペプチド成分を含む特定保健用食品は、治療を目的としたものではないので、高血圧で治療中の方は医師に相談してから摂取しましょう。ACE阻害薬を飲まれている方は、薬の作用が強くなることがあります。また長期間の摂取により、まれにせきができることがあるので、特に喘息、肺気腫などの呼吸器疾患のある方はこれらの食品の摂取には注意が必要です。またペプチドの摂取によりカリウムの排泄が抑えられ、高カリウム血症となる可能性もあります。妊娠中の方および腎不全の方は医師と相談してみるとよいでしょう。多量の摂取により疾病が治癒したりするものではありませんので、1日の摂取目安量を守って摂取しましょう。

特定保健用食品は、健康に良い食品成分によって体調を整える働きがあることを医学・栄養学的に証明された食品です。上手にとりいれて、高血圧・脳卒中などの一次予防に役立ててはいかがでしょうか？

執筆薬剤師 増子 由紀

105-4



おくすりQ&A

爪白癬(爪水虫)のパルス療法 について教えてください。

Q. 爪白癬(爪水虫)は塗り薬だけでは治りませんか？

A. 塗り薬は爪に浸透しにくいいため、爪の中の白癬菌(水虫菌)にまで届きません。そのため、飲み薬が必要です。飲み薬の場合、白癬菌(水虫菌)が完全になくなるまでの間、3ヶ月~1年間くらい飲み続けなくてははいけませんので根気よく続けることが大切になりますが、最近、新しい飲み方が認められました。それが、イトラコナゾール(商品名:イトリゾール)のパルス療法です。

Q. イトラコナゾールのパルス療法とは、どんな方法ですか？

A. パルス療法(短期大量間欠療法)とは、薬の内服を一定期間続けた後に、しばらく休止期間をおく治療方法です。爪白癬に対するイトラコナゾールのパルス療法の場合、200mg(4カプセル)を1日2回(400mg・8カプセル/日)を食直後に1週間服用して3週間休薬するのを1サイクルとして、これを3回繰り返します。空腹時よりも食後すぐ飲む方が吸収されやすいので必ず食直後に飲むようにして下さい。

Q. 治療は短期間で、薬効が長持ちするのは何故ですか？

A. イトラコナゾールは体内で分解されない分は爪に運ばれて長く留まります。休薬中や治療終了後も病爪に留まったお薬が作用を持続するのです。爪白癬を治療すると病爪の下から健康な爪が伸びてきますが、爪が完全に生え替わるまでには約1年~1年半かかります。その間もお薬は爪中に残っているので白癬菌を殺しながら新しい爪が伸びるのを待つという状態になるわけです。

Q. 飲み合わせで注意が必要なお薬などはありますか？

A. 代謝が抑えられて、副作用が現れやすくなるお薬の商品名として、「リポバス」、「ハルシオン」、「カルブロック」などがあります。休薬してお薬が完全に体内から無くなるわけではありませので、パルス療法中は休薬期間も含めてイトリゾール治療期間と考え、これらのお薬は控える方が良いでしょう。もし、他の病院・医院を受診されたり、薬局などでお薬をもらう場合は、かならず『イトリゾールのパルス療法』を行っていることを医師または薬剤師にお伝え下さい。



☆ 爪白癬(爪水虫)の完治を目指してがんばりましょう！！

執筆薬剤師 大城 梨絵子